

第2回「なくそう労災職業病」交流会

サムソン電子と合意

しかし労災をなくすための闘いはつづく

三月十三日、エルおおさか南館で第二回「なくそう職業病」交流会が行われました。主催は日韓民主労働者連帯と関西労働者安全センターです。

韓国からパノリム結成

メンバーの一人であり労働者のイ・ジョンランさん、サムソン電子LCD元労働者で脳腫瘍を発症したハン・ヘギョンさん、パノリム労働者のチョ・スンギュさん、漫画作家でパノリムの闘いを漫画

にしたキム・ソンヒさん、映像作家イ・ピヨングクさんを迎えて行われました。日本からは全国労働安全センター連絡会議事務局長の古谷杉郎さんが報告しました。

名前はクリーンルームだが…

まずドキュメンタリー映画「クリーンルームの話」が上映されました。サムソン電子半導体工場やLCD工場で働いてい

て慢性腎不全や白血病、脳腫瘍、卵巣がん、悪性リンパ腫などになった労働者の証言です。サムソンは世界中の良くないと言われているガスを千種類以上全部使っていると

言われていて、仕事中に倒れてそのまま亡くなった方もいます。

名前はクリーンルームですが、労働者に危険を知らせず、有害ガスを発生していた場所だったんですね。

重要なことは、二度とこのようなことが起こらないこと

そのあと、車いすで来日されたハン・ヘギョンさんの体験を聞きました。

ヘギョンさんは九五年にサムソンに入社し、六年後、疲労感が抜けないことや生理がなくなったことで不安を感じ退社しました。

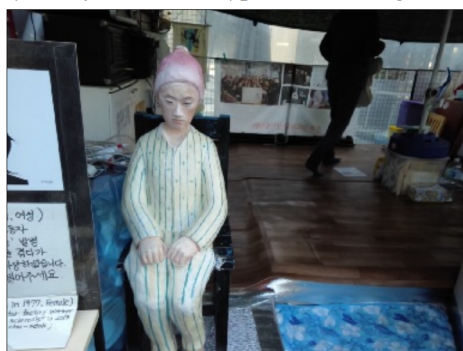
二〇〇五年に脳腫瘍の診断を受け手術。その後車いす生活になり話もスムーズにできません。しかし、パノリムを知ってから労災申請をしました。脳腫瘍で労災申請をしたのは彼女が初めてです。彼女の労災は認められま

せんでしたが、その後脳腫瘍も労災と認められ始めました。昨年一〇月二度めの労災申請をしています。彼女は不自由な体で一〇年間パノリムと共に活動しています。今回の合意については「大きな喜びはありません。もっと重要なことは本当にこうしたことが起こらないようにすることです」と話しました。

ファンユミさんの死の真相究明から始まった
続いてイ・ジョンランさんの活動報告です。
パノリムの活動はファン・ユミさんの死の真相究明から始まりました。

二人で組んで作業していた二人ともが亡くなりました。防塵服で全身を覆い、半導体のウエハーというものを薬液に付ける作業をしていました。白

血病はまれな病気で、すが、老朽化したラインで集中的に犠牲



サムソン社屋の前の座り込み場で一〇二三日間座り込み。入口の人形はファン・ユミさんがモデル。

二月に合意をした後二〇〇人を超える情報提供がありました。情報提供者の合計は六一六人、この中で死亡したのは一八五人です。

このうちサムソンが圧倒的に多く、情報提供が四四四人。そのうち百三十二人が死亡しました。

者が発生しました。
まず、ファン・ユミさんと同じ被害を被った被害者を探しました。当初はなかなか現れませんでした。徐々に増えて十

労災申請については、十一年間に百三十七人が白血病、リンパ腫、脳腫瘍、卵巣がんなどで行い、最初の四、五年間は一人も認定されませんでした

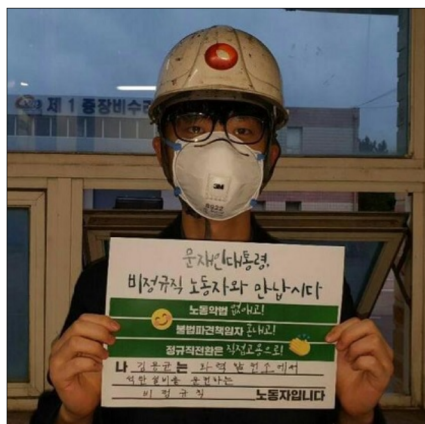
が、少しずつ認定されはじめ四三名が認定を受けました。

サムソン

五百億ウォン拠出

二〇一八年十一月二十三日、パノリムとサムソンは仲裁提案を受けて和解しました。サムソンは公開謝罪を行い、五〇〇億ウォンを出し二度と、健康被害が起きないようセンターを開設しました。

しかしこれは終わりでなくⅡの始まりです。半導体企業は化学物質の成分を企業秘密だと言って公開していません。化学物質の成分を公開し、労働者の健康が守られる



泰安火力発電所で亡くなったキム・ヨンギョンさん。手に持つボードには「ムン・ジェイン大統領非正規職と会いましょう」とある。
(十二月十三日ハンギョシ新聞)

よう、また、労災申請が幅広く簡単にできるように、このように亡くなる労働者が出ないように、これからもがんばっていきます。

下請けに多発する

死亡事故

次はチョン・スンギさんが二四歳の若さで亡くなったキム・ヨンギョンさんについて報告しまし

た。

彼は火力発電所で働く労働者でしたが、石炭を運ぶベルトコンベアーに挟まれて亡くなりました。彼は下請けの労働者だったので労働環境の危険性を訴えても、その意見は反映されませんでした。これを一言でいうなら

「危険の外注化」です。

危険な作業がすべて下請け労働者、間接雇用労働

死亡者数はゼロ、下請け労働者は三四人です。

キム・ヨンギョンさんは労働組合員でした。この写真は彼が間接雇用の問題を問題提起し「大統領が解決しなければいけない」と要求を掲げている写真です。

彼の死によって労働の安全と非正規職の正規職化を求める闘争は全国に広がり二カ月間の闘争を通じて二八年ぶりに産業安全保険法が改定されました。保護される範囲が広がり、元請けの義務が確定、事業主の処罰が強化されました。

安全センターの活動についての話を聞きました。

サムソンは巨大企業でありながら労働組合がありません。「労組があればファンユニさんは死なずにすんだ」とは日韓民主労働者連帯・中村猛さんの弁です。

日本でも危険な作業現場はあると思います。そういうところにこそ労組は必要！韓国の運動を教訓に労災を減らせればと思います。

アート・アド分会 N